

## オープン市場短信 (2016年8月)

2016.8.15

### ◆ 7月のCP市場動向

7月末のCP（短期社債）発行残高は14兆6176億円と、前年同月比で▲1兆9012億円の減少となり、10か月連続して前年を下回る結果となった。前月比は+1兆453億円の増加となったものの、7月末の残高としては過去最低を更新した。内訳をみると、一般事法が復活発行等により+1兆2602億円、金融機関で一部信託銀行の発行により、+2280億円の増加となった。一方、その他金融で▲3009億円、ABC Pで▲1380億円の減少であった。

発行レートの動きは、引き続き投資家やディーラーの購入ニーズが強く、銘柄や期間を問わず0%近辺での出合いが中心となった。マイナスレートでの発行は、一部の銘柄で確認されたが、全般的に広がる動きとはなっていない。

#### 【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄（a-1+格）0%近辺。一般事業法人（a-1格）0%~0.005%近辺。

その他金融銘柄（a-1格）0%~0.075%。

#### 【業態別残高内訳】

(単位:億円)

業 態	7月末残高	6月末残高	増 減
一般事法	43,013	30,411	12,602
その他金融	67,355	70,364	-3,009
金融機関	21,383	19,103	2,280
政府系金融	400	400	0
銀行等	10,760	7,610	3,150
証券	10,223	11,093	-870
ABC P	14,425	15,805	-1,380
計	146,176	135,683	10,493

(注:買入/消却分含む)

#### 【格付け別の発行レート】

##### 7月のCPLレートレンジ

(単位%)

格 付	1ヵ月	2ヵ月	3ヵ月
a-1+(一般事法)	0.0000% ~ ——	0.0000% ~ ——	—— ~ ——
a-1 (一般事法)	▲ ~ 0.0040%	▲ ~ 0.0040%	▲ ~ 0.0010%
a-1+(リース銘柄)	0.0000% ~ 0.0014%	0.0000% ~ 0.00001%	—— ~ ——
a-1 (リース銘柄)	0.0000% ~ 0.0750%	0.0000% ~ 0.0700%	0.0000% ~ 0.0050%
a-2	▲ ~ ケ0.10%	0.00000% ~ ケ0.10%	0.0000% ~ ケ0.10%

### 《CPオペ》

7月のCP等買入オペは、7日・15日・26日と各回3500億円でオファーされ、合計1兆500億円であった。前月対比では、▲3500億円の減額（6月は合計1兆4000億円）となった。オペの応札金額は、新規発行の伸び悩みもあって回を追うごとに減少したが、ディーラーの落札ニーズは強く、按分レートは各回ともに▲0.001%と変わらなかった。

【月末オペ残高：2兆3127億円】

#### 日報 CP等買入れオペ実績

(単位:億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
7月7日	7月12日	3,500	12,300	3,491	-0.001%	0.000%	21.4%
7月15日	7月21日	3,500	8,853	3,483	-0.001%	-0.001%	54.3%
7月26日	7月29日	3,500	7,506	3,479	-0.001%	-0.001%	68.4%

### 《ABCP》

ABCPの月末残は、前月比▲1380億円増加の1兆4425億円であった。前年同月比では、+401億円の増加となった。

### 《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると、7月末時点における発行登録企業数は先月末と変わらず、518社のままとなっている。

### 《CP現先市場》

現先(S/N)レートは、0%近辺での出会いとなっていた。

## ◆ 8月のCP市場動向

8月のCP償還額は約1兆8600億円で、前年同月の償還額（約2兆9800億円）を下回っている（除く、相対発行分・金融機関発行CP・ABCP）。

今月の発行動向は、中間期末を見据えてショートターム物の発行が中心となると思われる。月後半までは、夏季休暇要因もあって取引は閑散となるが、月末にかけては発行が増加しよう。発行レートは、ショートターム物や発行量の多い銘柄では、やや上昇する可能性も否定はできない。中間期末を越える銘柄については、投資家ニーズも強い事から、引き続き0%近辺での出会いが予想される。

### 《CPオペ》

8月のCP等買入オペのオファーは、4日・16日・26日に各々3500億円程度と、

7月と同規模の予定となっている。4日のオペについては、1兆円を上回る応札になるなど、ディーラーの応札姿勢は積極的だった模様。按分レートは▲0.001%と横這いだったが、平均落札レートは7月7日オファー以来の0.000%（前回比+0.001%）と、マイナス金利を脱した。7月28・29日に行われた日銀金融政策決定会合で、マイナス金利幅の拡大を見送った影響かと思われる。

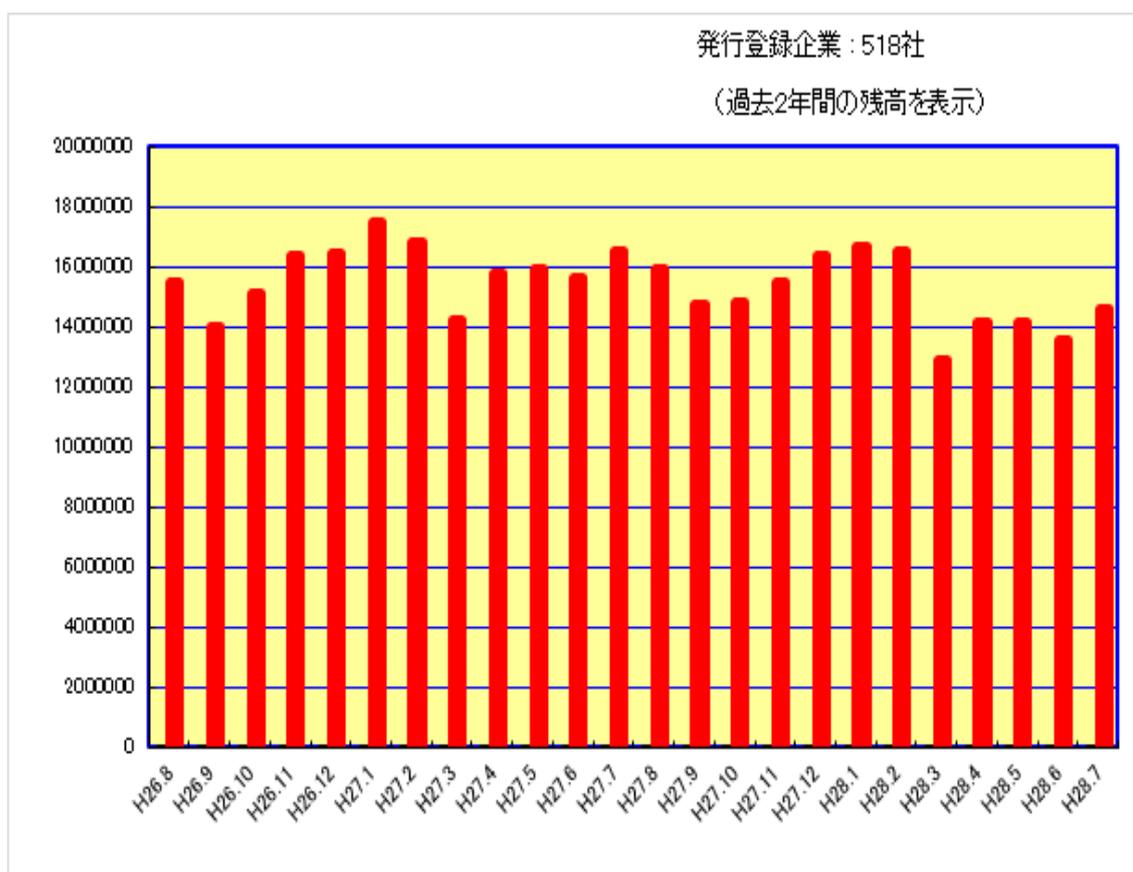
16日以降のオペについては、按分レート・平均落札レートは▲0.001%を中心とした展開を予想する。

《CP現先市場》

CP現先レートは、投資家のプラス圏内での運用ニーズは強く、0%近辺での出合いを予想する。

**参考資料**

短期社債月末残高（26年8月～28年7月）



## 7月末発行残高ベスト10

### 7月末発行残高上位10社

(単位:百万円)

	発行企業名	7月末残高	6月末残高
1	三井住友ファイナンス&リース	920,700	878,200
2	三菱UFJリース	750,700	773,300
3	東京センチュリーリース	598,400	612,000
4	みずほフィナンシャルグループ	500,000	500,000
5	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	475,010	481,140
6	JXホールディングス	446,000	402,000
7	三菱UFJ信託	369,000	10,000
8	芙蓉総合リース	367,200	367,200
9	興銀リース	361,600	366,600
10	新日鐵住金	360,000	16,000

参考出所 (株)証券保管振替機構

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性について保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長(登金)第243号

大阪本社 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋2丁目4番2号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1丁目2番3号

加入協会 日本証券業協会